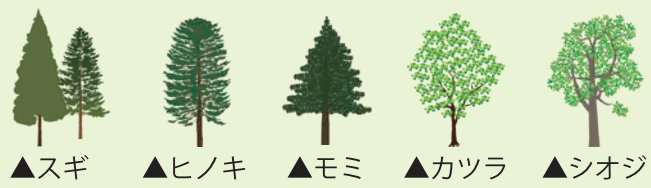


木々と歩く小田深山の道

旧森林鉄道 淵首～小田深山溪谷

- +++++ 旧森林鉄道軌道(推定)
- //// 石垣
- 遊歩道
- 現存する建物
- 現存しない建物



製材工場と水力発電



昭和 12~29 (1937~1954) 年にかけて稼働した官営製材工場では水力発電が行われ、製材機の動力として使用されていました。発電のために引き込まれた水は、木材を防虫貯蔵するための水中貯木場へ流されました。現在も水路跡が残り、桶小屋付近には黒川から水を引いた堰が確認できます。

カツラの湧水



カツラの木の根元から水が湧き、付近にある住宅の生活用水として使用されていました。

七供養 桶小屋

桶小屋

昭和 37(1962) 年頃の桶小屋には、営林署事務所や作業員の官舎、民家、旅館などがありました。官舎は主に単身世帯用で、二軒ずつの長屋になっていました。また、北部の山中には七供養の一つである三本スギがあります。

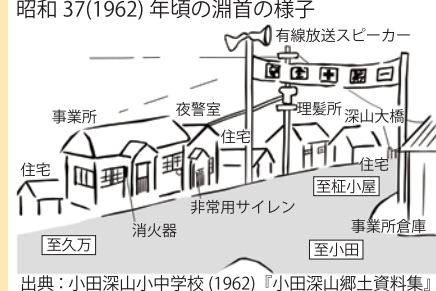
昭和 40 年代の桶小屋の様子



2 林業の拠点 淵首

淵首は昭和 30(1955) 年に鬼ヶ臼から移転した製品事業所をはじめ、営林署作業員の官舎や倉庫など林業関連の建物が集まり、小田深山の林業の拠点として栄えました。かつては水中貯木場や旧森林鉄道の軌道もあったとされます。昭和 34(1959) 年からは小田高陵木材企業組合によるパルプ材や薪などの木材加工事業も行われていました。

昭和 40 年代の淵首の様子



移転前の営林署の製品事業所周辺には、民家のほかに理髪所や夜警室がありました。個人商店はなく、淵首西部にあった生協で生活必需品を購入していました。淵首から西に 200m ほど進んだ場所に夜間のみ営業している飲食店もありました。桶小屋と同様に営林署作業員の住宅もあり、こちらは主に家族をもつ作業員のためのものでした。

至獅子越峠

七供養 地蔵淵

シオジの巨木

モミジとケヤキの合体木

黒川から見た小田製品事業所 (移転後・昭和 45(1970) 年以降撮影)

水力発電施設跡

黒川

至獅子越峠

3 安芸貞淵と天然モミ

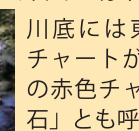


安芸貞淵は黒川の合流点に位置し、張り出した大岩が合流した急流を緩やかにし、下流の豊かな自然を守っており、周辺では天然モミなどが見られます。淵に石を投げ入れると次の日、ここに棲む龍が怒り、雨を降らせるといわれる伝説があります。

天然モミ



深山の赤石



川底には東西の線上に赤色チャートが見られ、小田深山の赤色チャートは「深山の赤石」とも呼ばれています。

二本のシオジ



沢

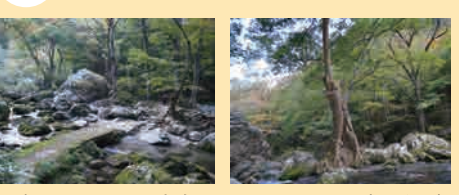


旧森林鉄道



大正 12 (1923) 年に敷設された旧森林鉄道本線の東端が淵首でした。昭和 28 (1953) 年に廃止されるまで木材や木炭、生活物資を機関車で獅子越峠に向け運びました。淵首から南へ延びる榎小屋支線や北へ延びる父二峰林道など本線につながる支線も複数敷かれ、牛や馬が本線までトロッコを引いていました。

4 五色河原と主の木



五色河原では、赤色チャート・石灰岩・泥岩など様々な種類の岩石が見られます。川の中洲にあるシオジは、大部分を水流に削られながらも倒れることなく立ち続ける姿から「主の木」と呼ばれています。

石垣



旧森林鉄道敷設時の石垣と推測されます。

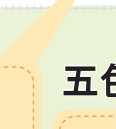
明治期の植林



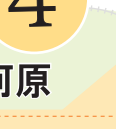
二本スギ



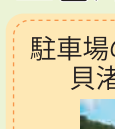
主の木



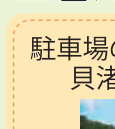
駐車場



岩割りのモミ



五色河原



駐車場の対岸に広がる貝渚山と水無山

廻り岩

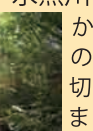


キャンプ場

廻り淵洞

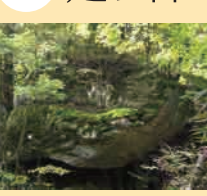


水無川



かつてこの川の上流で木を切り出していました。

5 廻り岩



黒川の上流から下流に向かって右側、橋のそばにある丸い大きな石灰岩が廻り岩です。度重なる激流で巨岩が一回転し現在の位置におさまったことから名付けられました。地震が起きても崩れなかったといわれています。

見ざる・言わざる・聞かざるの岩



営林署の官舎跡 ここにはかつて営林署の官舎が立ち並び、「廻り岩住宅」と呼ばれていました。

深山荘跡地



溪谷で見られる植物



ダイヤモンドソウ コマユミ

7 藤見河原

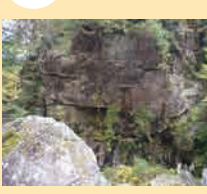


昭和 41(1966) 年に訪れた高松宮宣仁親王によって「藤見河原」と名付けられました。旧小田町の町花であったフジが名前の由来で、河原周辺の様々な木にツルが巻き付き、春には美しい花を咲かせます。黒川の中央部には中洲があり、ミズナラ・シオジ・モミジなどが自生しています。

7 藤見河原

至藤見河原

6 腰のばし岩とヒノキ



腰のばし岩は高さ 30m を超える石灰岩です。上を見る際に腰を伸ばすことから名付けられました。岩の上部に自生するヒノキは重力に負けないように大きく湾曲して成長しています。